

令和 5 年 5 月 22 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（特設分野研究）

研究期間：2017～2022

課題番号：17KT0030

研究課題名（和文）社会的境界研究の構築と移民トランスナショナリズムへの応用

研究課題名（英文）Social Borders and Immigrant Transnationalism

研究代表者

樽本 英樹（Tarumoto, Hideki）

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：50271705

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,300,000円

研究成果の概要（和文）：グローバル化、特に人の移動を契機に行為、制度、理念、コミュニティなどが国境を超えることは通常となった。なかでも移民トランスナショナリズムを分析するために、まずは境界研究の理論的検討を行い、社会的境界はHere-There、Us-Them、Include-Exclude、Self-Other、そしてInside-Outsideといった二項対立を揺れ動いていくと概念化できることがわかった。次に、ドイツの国籍法、イタリアの食文化とナショナルな共同性、アメリカ合衆国の生得的市民権制度、英国のEU離脱、日本のインバウンド観光、ビルマのディアスポラ政策に関する実証研究を行い、社会的境界の変容を特定した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル化の進展は領域的・地理的な国境を弱めるとしばしば主張される一方、逆にグローバル化が国境をより強化しているという主張もなされていた。このような学術的および社会的な疑問に対して、本研究は、境界研究に基づき次のことを示した。第1に、人の移動に直面すると国家は国境管理を厳しくする傾向にある。第2に人の移動が増加すると、国家や他の行為者は領域内の社会的境界を形成し強化しようとする。ところが第3に、移動する人々は国境を超えるトランスナショナルな空間をしばしば形成する。すなわち、移民の流入・滞在に伴って現れる「社会のメンバー」の境界を限定し再強化しようという反動的な動きが見逃されてきたのである。

研究成果の概要（英文）：In the wake of globalisation, especially the movement of people, it has become normal for acts, institutions, ideas and communities to transcend national borders. In order to analyse migrant transnationalism, among other things, we first conducted a theoretical examination of boundary studies and found that social boundaries oscillate between the dichotomies Here-There, Us-Them, Include-Exclude, Self-Other, and Inside-Outside, which found that they can be conceptualised. Next, empirical research on German nationality law, Italian food culture and national communality, the United States' system of birthright citizenship, the UK's exit from the EU, Japan's inbound tourism and Burma's diaspora policy was conducted to identify transformations in social boundaries.

研究分野：国際社会学

キーワード：境界 市民権 国籍 ネットワーク エスニック集団 国際移民 移民政策 移民統合政策

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景として、まずはグローバル化の急速な進展があった。そして境界研究という学術分野が、グローバル化時代において有望な研究分野として世界中の研究者および実務家の注目を集めていた。そこでは、グローバル化の顕著な進展は領域的 - 地理的な国境を弱めるとしばしば主張される一方、逆にグローバル化が国境を以前より強化しているという主張もなされていた。

しかし、正解はどちらか一方ではなく、2つの見解を超えたより複雑なものである可能性が高い。特に、国境を越えるモノの移動と比べて、人の移動は境界に関する 이슈をさらに複雑にする。第1に、人の移動に直面すると国家は領域を区切る国境管理をより厳しくする傾向にある。第2に人の移動が増加すると、国家や他の行為者は領域内の社会的関係を差異化する社会的境界を形成し強化する方向に反応する。さらに第3に、移動する人々は国境を超えるトランスナショナルな空間をしばしば形成する。

さらに、生じているのはトランスナショナルな空間だけではない。移民の流入・滞在に伴って逆に、「社会のメンバー」の境界を限定し再強化しようという反動的な動きも出てきている。その動きはナショナルな空間の再構築を目指しているのである。

こうした複雑な動きを学術的にいかに把握するかが問題となっていた。これが本研究の背景である。

2. 研究の目的

グローバル化の著しい進展により、様々な社会現象が社会の境界を越えて移動し、そして/または社会の境界を超えて広がるようになった。特に、人の移動を契機に行為、制度、理念、コミュニティなどが国境を超えることは通常となった。人の移動を発端として生じる社会現象の越境を移民トランスナショナリズムと呼んでおこう。このような移民トランスナショナリズムを分析するためには、既存のディシプリンに拘泥しては不可能であり、理論的・方法論的飛躍が求められる。

まず境界研究の検討を行い、移民トランスナショナリズムの分析に資する理論の構築を目指す。David Newman (2011) が指摘するように、境界研究は地理学、政治学、人類学、社会学といった複数のディシプリンを背景に持つと同時に、共通のテーマも抱えている。そのテーマとは境界に関わる様々な社会現象、すなわち境界形成・設定、境界管理、グローバル化と安全保障化、ボーダーランドや移行地帯、日常生活実践、境界過程の倫理などである。境界研究一般に関するこれら研究テーマは、社会的境界研究の課題と重なっているのである。この作業にはディシプリン横断的なパラダイムチェンジが必要であり、従来の発想にとらわれない学問的挑戦が求められる。

グローバル化の進展により国民国家間を区切る領域的 - 地理的境界と、人々の社会関係を区切る社会的境界は一致なくなり、複雑に交錯するようになってきた。それに伴い、多くの国で人々の間に様々な分断が形成され、社会統合の達成および/または維持が不安視されている。しかしこれらの2種類の境界がどのような相互関係を形成するのか、その動態はいまだ明らかではない。そこで本研究は2つの目的の達成を目指す。第1に、両境界の関係性を分析できるよう境界研究を社会的境界研究へと理論的・方法論的に発展させることである。第2に、領域的 - 地理的境界に囲まれた国民国家を超えた社会的境界の形成を志向する移民トランスナショナリズムに境界研究を応用し、その動態に関する各国間の相違を明確化しつつ、ポスト国民国家的な社会統合を模索することである。

3. 研究の方法

以上のような研究目的を達成するために、本研究は以下の方法によってアプローチしていった。

第1に、既存研究の文献サーベイにより社会的境界に関する理論の整備を行った。たとえば、境界研究の最も主要な学術誌のひとつである *Eurasia Border Review* に掲載された諸論文が有益であった。ところがそのほとんどが、境界概念で領域的 - 地理的境界を指示している。社会的境界に配慮している研究でさえ、例えば Lesnikovski (2011) はマケドニアのエスニック集団間関係を対象としつつ、“internal boundaries”を地理的境界として概念化していた。ヨーロッパ連

合 (EU) の “mental borders” を対象とした Liikanen (2010) は、社会的境界の発想に近づきながらも、領域的 - 地理的境界への興味内に留まっている。このように、境界研究における「境界」は「主権国家の領域的所有を区画する」とされてきたものである (Brunet-Jailly 2010:3)。

また、同学術誌以外では David Newman (2006) が例外的に境界の社会学的な理解に言及している。すなわち境界は、“Here-There”, “Us-Them”, “Include-Exclude”, “Self-Other and Inside-Outside” という二項対立的区別で表現されうるという。しかし、Newman は単に二項対立的区別を示しただけであった。そこで、その区別の現出や変容の理論的メカニズムや具体的現象への応用が必要であることがわかった。

第 2 に、参与観察および聞き取り調査を行った。最も成果を上げられたのは、新潟のある町で展開しているインバウンド観光に関する調査である。ここでは、スイスからの観光客が増加しており、その理由を探るため、地元観光業、地域住民、スイスの旅行会社、インターネット上のホームページなどの調査を行った。

しかし第 3 に、新型コロナの世界的流行のため海外に関する実証調査は、当初計画した聞き取り調査から文献資料による実証研究に切り替えて実施した。行ったのは、以下のような研究である。ドイツに関しては、19 世紀初頭以来の国籍法形成過程。イタリアに関しては、食などの文化的観点から見たナショナルな共同性の変化。アメリカ合衆国における生地主義と生得的市民権 (birthright citizenship) 制度の歴史的展開。英国の EU 離脱過程とその影響。ビルマ政府による海外同胞に対するディアスポラ市民権政策の刷新。

本研究は、大きく分けて以上 3 つの方法を採用して進められた。

4 . 研究成果

本研究は、一定の研究結果をあげることができた。理論的には、現代における社会的境界はナショナルなそれを強調する傾向性を持つことがわかった。そのナショナルな傾向性は、経済が低成長に転じたことに即した動きである。しかし、グローバル化は矛盾した傾向性ももたらしている。海外に労働力供給を求める各国の対応は、大量の移民の流入をもたらし、社会的境界の超ナショナルな形態の形成を促す。こうした矛盾した動きが存在することが理論的に明らかにされた。

理論的成果を踏まえて、以下のような実証的成果が得られた。

第 1 に、19 世紀初頭以来のドイツにおける国籍法の形成過程を追尾したところ、(1) ドイツ圏の諸邦の成員資格を定めるために形成された国籍法制が、ドイツ全体の国籍法として統合され、(2) その中で血統原理がひとつの核となり、(3) その過程でエスニック的、エスノ文化的なネーション概念が造り上げられた。

第 2 に、イタリアやイタリア人といったナショナルな共同性の普及は他の西欧諸国と比べると遅れていたものの、宗教や食などの文化的観点から強調されていった。しかし、19 世紀半ばから現代にかけてのイタリアからの送り出し移民、イタリアへの受け入れ移民はそのナショナルな共同性に常に揺さぶりをかけていた。

第 3 に、アメリカ合衆国における出生地主義と生得的市民権制度の歴史的変遷を追尾したところ、いずれも同国の移民政策の根幹を形成していることがわかった。ところが、それらは現代における反 = 生得的市民権の政治に結びつき、グローバルな移動性に対する排外主義・人種主義を喚起する議論として利用されていることがわかった。

第 4 に、英国の EU 離脱過程とその後の影響を調査したところ、国民投票の際に離脱派が唱えた「主権を取り戻せ」(Take back control) というフレーズが有権者に対して大きな影響を与えたことがわかった。そこで意味されていた領域のひとつが移民政策であり、主な対象は東欧諸国からの移民労働者だった。しかしその後英国は、労働力不足を被り、新たな労働力受け入れ策を模索することになった。

最後に、ビルマのディアスポラ市民権政策をサーベイしたところ、海外同胞向けの永住権新設などを通じて、ビルマ政府が海外同胞を自らの政治共同体につなぎ留めようとする施策を拡充させてきたことがわかった。さらにビルマ系難民帰国者が、出身国住民 (非移住者) との間で身体的・文化的差異を見出し、独自の立ち位置を示す社会的境界を立ち上げていることもわかった。

以上のような研究成果を公表すべく、現在、専門書の刊行を目指している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 樽本英樹	4. 巻 63
2. 論文標題 「ヨーロッパ難民危機」はなぜ危機だったのか - 社会的境界研究の視角から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会学年誌 (早稲田社会学会)	6. 最初と最後の頁 131-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南川文里	4. 巻 761
2. 論文標題 アフーマティヴ・アクションはアジア系差別か：「公平な入試」論争とアメリカの人種秩序	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 36-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見泰弘	4. 巻 17(2)
2. 論文標題 2021年軍事クーデター直後の滞日ビルマ人の政治的トランス ナショナリズムの諸相 社会イノベーションの視点を手掛かりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会イノベーション研究	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南川文里	4. 巻 211
2. 論文標題 カナダにおける移民・難民政策とその課題：カナダモデルの現在	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Migrants Network	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南川文里	4. 巻 48(13)
2. 論文標題 制度から考える反人種主義：制度的人種主義批判の射程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 91-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南川文里	4. 巻 50(3)
2. 論文標題 2020年のアメリカ型多文化主義：感染症危機、BLM、大統領選挙	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見泰弘	4. 巻 71(3)
2. 論文標題 テーマ別研究動向（難民研究〔国内〕）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 499-507
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田量久	4. 巻 42
2. 論文標題 W・E・B・デュボイスの黒人都市コミュニティ研究をめぐって - フィラデルフィア調査の成果と提言	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会学史研究	6. 最初と最後の頁 73-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見泰弘	4. 巻 107
2. 論文標題 移民はどこに住むのか 国際社会学のアプローチから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 住宅会議	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森千香子	4. 巻 7
2. 論文標題 移民社会フランスの新たな挑戦	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三田評論	6. 最初と最後の頁 36-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideki Tarumoto	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Why Restrictive Refugee Policy Can Be Retained? A Japanese Case	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Migration and Development	6. 最初と最後の頁 7-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/21632324.2018.1482642	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤成基	4. 巻 65(2)
2. 論文標題 グローバル化のなかの右翼ポピュリズム - ドイツAfDの事例を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会志林	6. 最初と最後の頁 95-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田量久	4. 巻 13
2. 論文標題 W.E.B. デュボイスと汎アフリカ主義 20世紀の国際情勢を背景に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代社会学理論研究	6. 最初と最後の頁 19-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樽本英樹	4. 巻 9
2. 論文標題 英国における多文化市民権と排外主義 - ヘイトスピーチ規制に着目して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 移民政策研究	6. 最初と最後の頁 22-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤成基	4. 巻 29(3)
2. 論文標題 ドイツ人の「追放」、日本人の「引揚げ」 その戦後における語られ方をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 75-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤成基	4. 巻 64(1)
2. 論文標題 カテゴリーとしての人種、エスニシティ、ネーション - ロジャース・ブルーベイカーの認知的アプローチについて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会志林	6. 最初と最後の頁 21-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤成基	4. 巻 63(4)
2. 論文標題 国民国家と外国人の権利 - 戦後ドイツの外国人政策から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会志林	6. 最初と最後の頁 59-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 本田量久	4. 巻 第10721号
2. 論文標題 地方におけるインバウンド観光振興とその意義 多様性に関わられた創造的なまちへ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地方行政	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森千香子	4. 巻 53
2. 論文標題 「ホームグロウン・テロリズム」の社会学的背景 - フランスにおけるマイノリティ差別とセグリゲーション	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 HQ	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南川文里	4. 巻 40
2. 論文標題 人種を数える：1970年代の連邦政府における人種とエスニシティの標準化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アメリカ史研究	6. 最初と最後の頁 81-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南川文里	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 戦後期における出入国管理体制の成立と「非移民国」日本	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 137-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南川文里	4. 巻 908
2. 論文標題 「マイノリティ優遇」論の時代：米国における反多文化主義の政治が示唆するもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 169-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦泉寺友紀	4. 巻 56
2. 論文標題 食文化の変容にみる戦後イタリア社会 一九六〇年代を中心として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日伊文化研究	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秦泉寺友紀	4. 巻 56
2. 論文標題 宗教に揺れるイタリア 移民の急増、ムスリムとの向き合い方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日伊総合研究所報(星美学園短期大学)	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計39件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 南川文里
2. 発表標題 アジア系アメリカ人による反多文化主義：「公平な入試」論争と人種政治
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 南川文里
2. 発表標題 もうひとつのアジア系差別？ エリート大学における「公平な入試」論争から考える」
3. 学会等名 シンポジウム「アジア系・ヘイトとはなにか：「いま」の依拠する歴史と構造」立教大学アメリカ研究所主催（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 HITOMI, Yasuhiro
2. 発表標題 The Migrant Origin Countries and the Overseas Citizens: The Case of the Burmese Diaspora Policies
3. 学会等名 East Asian Sociological Association, 2nd EASA Annual Conference (Pukyong National University, Pusan, Korea / Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 樽本英樹
2. 発表標題 英国のEU離脱と社会的境界
3. 学会等名 第93回日本社会学会大会（オンライン開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hideki Tarumoto
2. 発表標題 Japanese Super-diversity in Immigrants?
3. 学会等名 International Sociological Association (ISA) IV Forum of Sociology (Porto Alegre, Brazil (Virtual)) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Fuminori Minamikawa
2. 発表標題 Standardization of Racial Statistics and Shifting Intellectual Grounds of Race in U.S. Multiculturalism
3. 学会等名 American Sociological Association (Online)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 南川文里
2. 発表標題 多人種主義を再考する：アメリカ型多文化主義と人種統計
3. 学会等名 第93回日本社会学会大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 人見泰弘
2. 発表標題 難民研究の動向と課題 - 移民・難民研究の深化に向けて
3. 学会等名 第68回北海道社会学会大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本田量久
2. 発表標題 W・E・B・デュボイスの平和活動と社会主義イデオロギー
3. 学会等名 第93回日本社会学会大会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 樽本英樹
2. 発表標題 重国籍制度の比較社会学的考察に向けて
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会，東京女子大学，東京
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideki Tarumoto
2. 発表標題 How to Become an Immigration Country: A Japanese Case
3. 学会等名 The 2019 Center for Global Asia (CGA) Annual Conference, "Asian Migration," New York University (NYU) Shanghai, Shanghai, China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideki Tarumoto
2. 発表標題 The Turning Point to an Immigration Country: A Japanese Case
3. 学会等名 The IISL and RCSL Congress on "Linking Generations for Global Justice," Onati International Institute for the Sociology of Law, Onati, Spain (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本田量久
2. 発表標題 観光振興に伴う地域コミュニティの変容
3. 学会等名 日本社会学理論学会第14回大会, 東京, 東洋大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本田量久
2. 発表標題 冷戦期におけるデュボイスの反戦活動とアメリカ政府による思想統制
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会, 東京女子大学, 東京
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhisa Honda
2. 発表標題 Glocalization for International Tourism in the Countryside of Japan
3. 学会等名 Experience and Prospects of Cooperation between Russia and Japan, Vladivostok, Russia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本田量久・藤田玲子
2. 発表標題 創造農村と社会関係資本に関する社会学的考察
3. 学会等名 日本観光研究学会第34回大会, 名城大学, 沖縄県名護市
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 人見泰弘
2. 発表標題 滞日ビルマ系難民と越境する家族に関する研究
3. 学会等名 武蔵社会学会大会, 東京 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasuhiro Hitomi
2. 発表標題 Refugee Families and Transnationalism: The Case Study of Burmese Refugees in Japan',) (査読あり)
3. 学会等名 International Sociological Association The Family in Modern and Global Societies: Persistence and Change, Hanoi, Vietnam (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 人見泰弘
2. 発表標題 戦後日本とインドシナ難民受け入れの意義
3. 学会等名 上智大学大学院 グローバル・スタディ研究科国際関係論専攻主催・三菱財団研究助成「日本型難民社会統合政策の構築に向けた総合的調査研究」, 上智大学四谷キャンパス, 東京
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 人見泰弘
2. 発表標題 日本におけるインドシナ難民の社会統合の現状と課題
3. 学会等名 公益財団法人笹川平和財団・一橋大学大学院社会学研究科グローバル・リーダーズ・プログラム共催・移民政策学会後援「英国・難民の社会統合指標と日本への示唆」, 東京 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤成基
2. 発表標題 冷戦下のナショナリズムと国家形成 - 朝鮮戦争を切り口にして
3. 学会等名 カルチュラル・タイフーン2019, 慶應義塾大学三田キャンパス, 東京
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideki Tarumoto
2. 発表標題 A Socio-Legal Analysis of Multiple Citizenship
3. 学会等名 RCSL-SDJ Lisbon Meeting 2018, Law and Citizenship Beyond The States, ISCTE-IUL, Lisbon, Portugal (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideki Tarumoto
2. 発表標題 Absence of Anti-Immigrant Populism in Japan
3. 学会等名 XIX ISA World Congress of Sociology, Metro Toronto Convention Centre, Toronto, Canada (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuhisa Honda
2. 発表標題 Global Network and International Tourism in Itoigawa, Niigata
3. 学会等名 The 24th Annual Conference of Asia Pacific Tourism Association, Cebu, the Philippines (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 南川文里
2. 発表標題 アメリカ型移民国家における生得的市民権と排外主義
3. 学会等名 シンポジウム「逆流するグローバリゼーションにゆれる市民権」静岡県立大学（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樽本英樹
2. 発表標題 「多文化主義の後退」仮説に関する一考察
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会（東京大学、東京都文京区）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideki Tarumoto
2. 発表標題 Considering Multiple Nationality from a Citizenship Perspective: A British Case
3. 学会等名 The 15th East Asian Sociologists Network Conference (Lyton Hotel, China) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideki Tarumoto
2. 発表標題 Considering a Mechanism of Migrant Acceptance from a Japanese Case
3. 学会等名 International Meeting on Law and Society, "Walls, Borders, and Bridges: Law and Society in an Inter-Connected World" (Sheraton Maria Isabel Hotel & Towers, Mexico). (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideki Tarumoto
2. 発表標題 A Negative Development of Refugee Policy in Japan
3. 学会等名 The Doha Forum (XVII), "Development, Stability and Refugees Crisis" (Sheraton Hotel Doha, Qatar) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 人見泰弘
2. 発表標題 滞日ビルマ系難民二世をめぐる教育戦略
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会 東京大学 (東京都文京区)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 人見泰弘
2. 発表標題 戦後日本の難民政策の制度構造とその変遷
3. 学会等名 国家論研究会 法政大学 (東京都千代田区) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Maeda, Asako, Norifumi Hida, Shin Matsuo, and Yasuhiro Hitomi
2. 発表標題 Taking Refugee Issues as Our Own through Dramatic and Non-Dramatic Activities
3. 学会等名 Singapore Drama Educators Association (SDEA) SDEA Theatre Arts Conference 2017. Goodman Arts Centre (Singapore) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本田量久
2. 発表標題 人口減少地域におけるインバウンド観光振興と地域活性化
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会（東京大学（東京都文京区））
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本田量久
2. 発表標題 外国人ネットワークを活かしたインバウンド観光振興策 糸魚川における言語対応と課題
3. 学会等名 日本観光研究学会 第32回全国大会研究発表会（金沢星稜大学（石川県金沢市））
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chikako Mori
2. 発表標題 The Securitization of migrants and the rise of anti-immigrant attitudes: the role of the state and immigration policies in France”, The Global Refugee Crisis: Mobile People under State Protection or Exploitation?
3. 学会等名 National University of Singapore (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森千香子
2. 発表標題 フランスにおける「ムスリム女性」表象の変容 「哀れみの身体」 から「狂暴な身体」へ」
3. 学会等名 国際シンポジウム「イスラモフォビアの時代とジェンダー」東京大学東洋文化研究所
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 南川文里
2. 発表標題 アメリカ型多文化主義と「マイノリティの優遇」論
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会 東京大学（東京都文京区）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Fuminori Minamikawa
2. 発表標題 Comment to the Session "Voices of Dissent: Trans-Pacific and Hemispheric Approaches to Teaching Race, Violence, Histories, and Identities"
3. 学会等名 American Studies Association Annual Meeting, Hyatt Regency Chicago (USA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 南川文里
2. 発表標題 アメリカの第一次世界大戦と「戦場巡礼」のジェンダー分析：望戸愛果『「戦争体験」とジェンダー』から考える
3. 学会等名 戦争社会学研究会関東例会 埼玉大学（埼玉県さいたま市）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計22件

1. 著者名 鈴木江理子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 309
3. 書名 アンダーコロナの移民たち：日本社会の脆弱性があらわれた場所（南川文里 コラム「アメリカ合衆国におけるコロナ危機と移民」144-146頁担当）	

1. 著者名 足立研幾, 板木雅彦, 白戸圭一, 鳥山純子, 南野泰義編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 プライマリー国際関係学 (南川文里 第12章「移民: 越境者たちが変える世界」203-217頁担当)	

1. 著者名 赤川学・祐成保志編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 248
3. 書名 社会の解読力<歴史編> (第3章秦泉寺友紀「南ティロルにおけるファシズム/レジスタンスの記憶 解放記念日と凱旋門の顕彰を手がかりとして」pp.47-63)	

1. 著者名 鹿毛敏夫編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 224
3. 書名 交錯する宗教と民族 交流と衝突の比較史 (人見泰弘「民族をめぐる対立と交流の位相 滞日ビルマ系難民の国際移動の事例から」66-78頁)	

1. 著者名 John Stone, Rutledge Dennis, Polly Rizova, and Xiaoshuo Hou	4. 発行年 2020年
2. 出版社 John Wiley & Sons	5. 総ページ数 559
3. 書名 The Wiley Blackwell Companion to Race, Ethnicity, and Nationalism (Tarumoto, Hideki, Immigrant Acceptance in an Ethnic Country: The Foreign Labor Policies of Japan, 379-401)	

1. 著者名 南川文里	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 356
3. 書名 未完の多文化主義：アメリカにおける人種、国家、多様性	

1. 著者名 松尾昌樹・森千香子（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 264
3. 書名 移民現象の新展開	

1. 著者名 中村文哉・鈴木健之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 242
3. 書名 行為論からみる社会－危機の時代への問いかけ(佐藤成基「行為論から見た国家　ヴェーバー『社会学の根本概念』から国家を考える」)	

1. 著者名 宮島喬・藤巻秀樹・石原進・鈴木江理子編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 312
3. 書名 『環』(人見泰弘「「移民」たちの現在　ビルマ(ミャンマー)　民政移管と変容するコミュニティ」)	

1. 著者名 万城目 正雄・川村千鶴子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東海大学出版部	5. 総ページ数 264
3. 書名 インタラクティブゼミナール 新しい多文化社会論 共に拓く共創・協働の時代(人見泰弘「日系人と日本社会 歴史・ルーツ・世代をめぐって」)	

1. 著者名 高谷幸編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 256
3. 書名 移民政策とは何か(森千香子「反差別ー独立した人権機関の設置が急務だ」, 佐藤成基「国籍・シティズンシップ - 出生地主義の導入は可能か」)	

1. 著者名 伊藤るり編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 400
3. 書名 家事労働の国際社会学 : ディーセント・ワークを求めて(森千香子「移住女性エンパワメントと地域コミュニティ組織の役割」)	

1. 著者名 宮島喬・佐藤成基編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 包摂・共生の政治か、排除の政治か 移民・難民と向き合えるヨーロッパ(佐藤成基「A f D (ドイツのための選択肢)の台頭と新たな政治空間の形成」)	

1. 著者名 『現代地政学事典』編集委員会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 現代地政学事典（佐藤成基「マイノリティ・ナショナリズム」「ナショナリズムと戦争／紛争」）	

1. 著者名 樽本英樹編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 排外主義の国際比較 - 先進諸国における外国人移民の実態	

1. 著者名 Thomas Lacroix and Amandine Desille (eds)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 243
3. 書名 International Migrations and Local Governance: A Global Perspective (Hideki Tarumoto 2018 The Limits of Local Citizenship in Japan)	

1. 著者名 人見泰弘編（人見泰弘、伊豫谷登士翁、駒井洋、栗本英世、錦田愛子、岡崎彰、今井宏平、久保山亮、佐原彩子、宮脇幸生、古屋博子、須永修枝）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 303
3. 書名 移民・ディアスポラ研究 第6号 難民問題と人権理念の危機 国民国家体制の矛盾	

1. 著者名 移民政策学会設立10周年記念論集刊行委員会編（人見泰弘、井口泰、池上重弘、榎井縁、大曲由起子、児玉晃一、駒井洋、近藤敦、鈴木江理子、渡戸一郎ほか）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 移民政策のフロンティア 日本の歩みと課題を問い直す	

1. 著者名 渋谷淳一・本田量久 編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 392
3. 書名 21世紀国際社会を考える 多層的な世界を読み解く38章	

1. 著者名 友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留 編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 312
3. 書名 社会学の力 最重要概念・命題集（本田量久「エスニシティとナショナリズム」（144-147頁））	

1. 著者名 アメリカ学会編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 958
3. 書名 アメリカ文化事典（項目「エスニシティ」担当，189-181）	

1. 著者名 日本社会学会 理論応用事典刊行委員会編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 952
3. 書名 社会学理論応用事典（項目「人種編成とエスニシティ」担当，760-761）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森 千香子 (Mori Chikako) (10410755)	一橋大学・大学院社会学研究科・准教授 (12613)	
研究分担者	人見 泰弘 (Hitomi Yasuhiro) (10584352)	名古屋学院大学・国際文化学部・准教授 (33912)	
研究分担者	南川 文里 (Minamikawa Fumisato) (60398427)	立命館大学・国際関係学部・教授 (34315)	
研究分担者	秦泉寺 友紀 (Shinsenji Yuki) (60512192)	和洋女子大学・人文学部・准教授 (32507)	
研究分担者	佐藤 成基 (Sato Sigeki) (90292466)	法政大学・社会学部・教授 (32675)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	本田 量久 (Honda Kazuhisa) (90409540)	東海大学・観光学部・教授 (32644)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関